



2015年11月2日

人民元クロスボーダー決済システムの運用開始

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 研究員 五味 佑子

2015年10月、人民元クロスボーダー決済システム（RMB Cross-border Inter-bank Payment system、以下CIPS）の運用が始まった。CIPS（フェーズ1）では、国際的な電文基準に従った人民元の即時グロス決済が可能となる。CIPSに直接アクセスできる「直接参加行」には中国本土（オンショア）にある19行（国内銀行11行、海外・香港の銀行8行）が指定され、直接参加行を通して「間接参加行」とよばれるオフショアの176行（中国の銀行38行、海外の銀行138行）がアクセスできる。なお、条件を満たした銀行はCIPSへの加入申請ができることから、今後参加行は拡大する可能性がある。

中国人民銀行によると、これまでクロスボーダー人民元決済は指定されたオフショアの人民元決済銀行を通じて行われるか、中国国内のエージェント銀行を通じて行われてきた。CIPS導入により、CIPSという共通のプラットフォームにクロスボーダー人民元決済が集約されるため、クロスボーダー人民元決済取引全体の効率が上がることが期待される。なお、上記の既存のクロスボーダー人民元決済の方式は、引き続き市場の需要を満たすために利用されていくと述べられている。また、オフショアにある海外の銀行にとっては、CIPSという信頼性の高いシステムを通じて潤沢なオンショアの人民元へのアクセスが可能となるため、クロスボーダー人民元取引がより活発になることが見込まれる。

CIPSの運営は、上海に新たに設立された決済機関が担い、中国人民銀行の監督・管理を受ける。CIPS（フェーズ2）では、さらにクロスボーダー、オフショア人民元決済の利便性を向上することを目指すとしている。現段階でどこまでの取引が可能で、フェーズ2になるとどう発展するのか、具体的に見えない部分はあるものの、人民元国際化の動きがより加速する方向へと進展していることはいえるだろう。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。